

## 【臨床指標 2】 診療科別症例数トップ 5

### ● 解説

診療科別に症例数の多い上位 5 つの診断群分類について、それぞれの平均在院日数、平均年齢を示したものです。それぞれの診療科がどのような疾患を多く診療しているかを知ることが出来ます。

小牧市民病院全体としまして、救急医療入院の割合が高い症例が多く、平均在院日数が短い傾向にあります。これは、当院が尾張北部医療圏における三次救急医療を担う医療機関であること、また、より効率的な医療提供を行っていることを反映しています。

DPCコード単位で見ますと、心臓カテーテル検査、前立腺針生検、脳腫瘍におけるガンマナイフ治療が上位 3 つのコードとなります。これらは全国的に見てもかなり多い症例数と言えます。

※ DPCとは「Diagnosis Procedure Combination」の略で、厚生労働省が定める診断群分類のことです。病名と診療内容等の組み合わせにより、様々な状態の患者さんを分類するためのツールです。なお、DPCは入院症例のみが集計対象であり、外来症例は含みません。

### 【内科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 心臓カテーテル法による諸検査(一連の検査について) 副傷病なし	390件	2.2日	0.3%	67.1歳
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 手術・処置なし	172件	16.3日	2.4%	69.6歳
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈手術(形成術・ステント留置術など)あり	165件	3.1日	0.0%	66.0歳
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術・処置なし 副傷病なし	150件	23.8日	14.0%	80.4歳
010060x099030x	脳梗塞(JCS30未満) ラジカット注投与あり 副傷病なし	149件	17.5日	16.8%	70.0歳

#### 《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位 5 つの DPC コードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。ただし、厚生労働省のデータで最も多い症例として「小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡的結腸ポリプ・粘膜切除術等 副傷病なし」とされておりますが、当院においては、そのほとんどが外来で実施するため、上位に計上されておられません。

当院内科には、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、腎臓内科、糖尿病内分泌内科が属し、尾張北部医療圏における救急医療、がん診療、高次医療を担う急性期総合病院としてそれぞれにおける専門的な治療を行っております。当院における平成 26 年 9 月以前の DPC 調査データにつきましては、内科における専門診療科毎のデータ出力ができませんので、専門分野における傾向や分析はできておりません。平成 26 年 10 月以降の DPC データにつきましては専門診療科毎のデータ出力が可能となりましたので、次回、公開の際には専門診療科毎の分析報告を掲載する予定です。

#### 【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

- ① 「狭心症、慢性虚血性心疾患 心臓カテーテル法による諸検査(一連の検査について) 副傷病なし」  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合 = 2.15%、平均在院日数 = 3.17日、救急医療入院比率 = 6.39%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合 = 3.05%、平均在院日数 = 2.2 日、救急医療入院比率 = 7.2 %
- ② 「肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 手術・処置なし」  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合 = 2.16%、平均在院日数 = 15.28日、救急医療入院比率 = 57.98%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合 = 1.34%、平均在院日数 = 16.3 日、救急医療入院比率 = 88.4 %

【小児科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
040080x1xxx0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満) 手術・処置なし	165件	5.3日	0.0%	2.4歳
150010xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置なし	67件	4.8日	0.0%	2.7歳
040130xx99x0xx	呼吸不全(その他) 手術・処置なし	65件	6.2日	0.0%	2.3歳
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置なし	58件	5.9日	0.0%	3.5歳
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害 (出生時体重2500g以上) 手術・処置なし 副傷病なし	36件	6.6日	0.0%	0.0歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております、「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。呼吸器系の疾患が多く、特に「肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満)手術・処置なし」の症例は小児科における症例の20%以上を占めております。

当院小児科は、連日当直医を配置し、急性期疾患を含めた小児疾患に広く対応しております。また、急性期疾患のみならず、血液疾患、腎疾患を始めとする小児慢性疾患の治療も行っております。新生児特定集中治療室(NICU)も備えており、近隣産科開業医の先生方からハイリスクの妊婦さんを母体搬送していただき、産科と協力し、地域における周産期医療も担っております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満)手術・処置なし」

医療機関全体の状況

全症例中の割合 = 1.16%、平均在院日数 = 5.70日、救急医療入院比率 = 34.22%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合 = 1.29%、平均在院日数 = 5.3日、救急医療入院比率 = 0.0%

②「ウイルス性腸炎 手術・処置なし」

医療機関全体の状況

全症例中の割合 = 0.92%、平均在院日数 = 5.75日、救急医療入院比率 = 41.07%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合 = 0.52%、平均在院日数 = 4.8日、救急医療入院比率 = 0.0%

【外科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
060160x002xx0x	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア 副傷病なし	133件	4.2日	0.0%	64.2歳
060035xx0100xx	大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍 腫瘍切除手術(腹腔鏡下結腸切除など) 副傷病なし	119件	16.1日	0.5%	69.5歳
090010xx02x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除・リンパ節群郭清など)	100件	6.7日	0.0%	59.8歳
060335xx0200xx	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術	74件	6.2日	0.0%	58.3歳
060330xx02xxxx	胆嚢疾患(胆嚢結石など) 腹腔鏡下胆嚢摘出術(または胆嚢切開結石摘出術)	60件	5.4日	0.0%	58.6歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっております。概ね同じ傾向となっております。

当院の外科の特徴としましては、消化器疾患、乳腺疾患、小児および成人の鼠径ヘルニア、多発外傷などその疾患は多岐にわたっており、特に消化器外科領域の症例が多く、当院における外科症例の70%以上を占めています。第3位の症例数となる「乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除・リンパ節群郭清など)」につきましては、尾張北部医療圏では最も多い症例数であり、医療機関全体の中でも上位となっております。また、患者さんの術後の生活の質(QOL)を考慮し、胆石症、胃癌、大腸癌、脾臓摘出術につきましては、腹腔鏡下に行うことが多く、乳癌については縮小手術を積極的に取り入れております。また、悪性疾患に対する抗癌剤による化学療法におきましても、可能な限り外来で行う方針としております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

- ①鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア 副傷病なし  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合 = 0.74%、平均在院日数 = 5.61日、救急医療入院比率 = 3.25%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合 = 1.04%、平均在院日数 = 4.2日、救急医療入院比率 = 0.8%
- ②「大腸(上行結腸からS状結腸)の悪性腫瘍 腫瘍切除手術(腹腔鏡下結腸切除など) 副傷病なし」  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合 = 0.43%、平均在院日数 = 18.34日、救急医療入院比率 = 6.95%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合 = 0.93%、平均在院日数 = 16.1日、救急医療入院比率 = 12.6%

【脳神経外科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
010010xx9903xx	脳腫瘍 化学療法なし・放射線治療あり（ガンマナイフなど）	256件	3.2日	2.8%	64.0歳
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外） JCS30未満 手術・処置なし	71件	15.9日	38.0%	63.8歳
160100xx02x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術 副傷病なし	51件	8.9日	7.8%	72.2歳
010040x099x10x	非外傷性頭蓋内血腫 （非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS30未満） 処置あり（中心静脈注射、人工呼吸など）	45件	6.8日	8.9%	37.6歳
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術・処置なし 副傷病なし	41件	5.2日	2.4%	52.2歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、1位のDPCコードである「脳腫瘍 化学療法なし・放射線治療あり（ガンマナイフなど）」につきましては、医療機関全体における全症例中の割合が0.14%に対し、当院における全症例中の割合は2.0%と高い値となっております。その症例数は全国でもトップクラスであり、当院におけるガンマナイフ治療が積極的に行われていることが分かります。

当院の脳神経外科の特徴としましては、顕微鏡手術のほか、ガンマナイフを含む画像診断を用いた定位脳手術、内視鏡手術、カテーテルを使用した血管内手術など、幅広く脳神経外科疾患の最先端の治療を専門的に行っており、名古屋大学脳神経外科教室と連携し、いつでも大学病院と同等の先端治療が提供できるよう努めております。また、この地域の他の医療機関と連携して脳血管障害の急性期治療に対処しております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

- ①「脳腫瘍 化学療法なし・放射線治療あり（ガンマナイフなど）」  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合＝ 0.14%、平均在院日数＝10.06日、救急医療入院比率＝ 5.74%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合＝ 2.00%、平均在院日数＝ 3.2 日、救急医療入院比率＝ 0.4 %
- ②「非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外） JCS30未満 手術・処置なし」  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合＝ 0.33%、平均在院日数＝20.76日、救急医療入院比率＝74.05%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合＝ 0.55%、平均在院日数＝15.9 日、救急医療入院比率＝59.7 %

【整形外科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩・股	138件	26.8日	77.5%	80.6歳
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む） 人工関節置換術（再置換を含む）	51件	23.5日	9.8%	71.2歳
160800xx97xxxx	股関節大腿近位骨折 その他手術あり	44件	20.8日	40.9%	72.1歳
07040xxx01xx0x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む） 人工関節再置換術 （または人工骨頭挿入術 肩・股）副傷病なし	36件	23.0日	2.8%	66.5歳
160700xx97xx0x	鎖骨骨折、肩甲骨骨折 手術あり 副傷病なし	33件	3.5日	0.0%	34.4歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっております、概ね同じ傾向となっております。

当院の整形外科におきましては、上肢、下肢、脊椎と広く運動器の疾患・外傷を治療疾患としておりますが、特に関節外科領域の症例が多いのが特徴です。患者さんの術後の生活の質（QOL）を考慮し、最先端の治療法を積極的に取り入れており、できる限り侵襲の少ない手術方法を選択しております。また、大腿骨頸部骨折におきましては、地域連携パスにより当院と他の病院や診療所が術後リハビリテーションを連携し、救急外傷の患者のためにベッドを確保するように努めております。結果として、第1位および第3位の症例数となる「股関節大腿近位骨折」における転院率が非常に高い状況となっております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩・股」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 0.93%、平均在院日数＝30.24日、救急医療入院比率＝57.88%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 1.08%、平均在院日数＝26.8日、救急医療入院比率＝60.1%

②「膝関節症（変形性を含む） 人工関節置換術（再置換を含む）」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 0.38%、平均在院日数＝28.99日、救急医療入院比率＝ 0.27%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 0.40%、平均在院日数＝23.5日、救急医療入院比率＝ 0.0%

【産婦人科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 帝王切開術、子宮全摘術等	100件	7.8日	0.0%	33.1歳
120170xx99x00x	早産、切迫早産 手術・処置なし 副傷病なし	65件	24.7日	1.5%	30.4歳
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘手術ほか（子宮筋腫摘出術など）	61件	7.8日	0.0%	43.9歳
120260xx01xxxx	分娩の異常 子宮破裂手術ほか （帝王切開術、妊娠子宮摘出など）	59件	7.7日	0.0%	31.4歳
12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮筋腫摘出（核出）術 腔式ほか	44件	3.8日	0.0%	38.6歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。なお、1位のDPCコードである「胎児及び胎児付属物の異常 帝王切開術、子宮全摘術等」におきましては、そのほとんどが帝王切開術の症例となっております。

当院産婦人科におきましては、尾張北部医療圏における救急医療病院としまして産婦人科領域全般を治療疾患としております。特に、産科部門としましては新生児特定集中治療室（NICU）も備えており、尾張北部医療圏の周産期母子医療センターに指定されていることから、近医よりハイリスク妊娠の紹介例も多く、小児科をはじめ他科の協力のもと母児の管理を行っています。また、婦人科部門におきましては、卵巣腫瘍、子宮筋腫、性器脱などの良性疾患の保存療法と手術治療を行っており、悪性腫瘍に対しては、手術に加え病期に応じて化学療法や放射線療法を行っています。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

① 「胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等」

医療機関全体の状況

全症例中の割合 = 0.35%、平均在院日数 = 10.55日、救急医療入院比率 = 1.93%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合 = 0.78%、平均在院日数 = 7.8日、救急医療入院比率 = 2.0%

② 「早産、切迫早産 手術・処置なし 副傷病なし」

医療機関全体の状況

全症例中の割合 = 0.24%、平均在院日数 = 20.43日、救急医療入院比率 = 24.78%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合 = 0.51%、平均在院日数 = 24.7日、救急医療入院比率 = 1.5%

【耳鼻いんこう科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	88件	8.3日	0.0%	12.4歳
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	24件	5.9日	0.0%	56.4歳
030160xxxxxxxx	大唾液腺の良性腫瘍	20件	5.4日	0.0%	61.5歳
03001xxx99x3xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 化学療法ありかつ放射線療法あり	19件	24.7日	0.0%	67.4歳
030280xxxxxxxx	声帯ポリープ、結節	16件	5.3日	0.0%	54.4歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、全国的には「上気道炎」や「扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし」が上位の二疾患となっておりますが、上記の表には入っておりません。これは、この2つの疾患が子供に多いことから、耳鼻いんこう科としての症例数にカウントされず、小児科としての症例数にカウントされていることが原因です。

当院におきましては、地域の中核病院として耳鼻いんこう科・頭頸部外科全般の疾患を治療対象としています。特に慢性中耳炎・真珠腫の手術的治療、鼻副鼻腔炎及び鼻茸症に対する内視鏡下鼻副鼻腔手術、頭頸部腫瘍の治療を重点目標としています。中耳炎・鼻副鼻腔炎の手術に関してはできるだけ短期入院を目標としており、頭頸部悪性腫瘍に対しては、できるだけ機能温存を目標としています。消化器外科及び形成外科と協力して拡大手術、再建手術も行っています。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「扁桃、アデノイドの慢性疾患」

医療機関全体の状況

全症例中の割合 = 0.29%、平均在院日数 = 8.34日、救急医療入院比率 = 0.47%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合 = 0.68%、平均在院日数 = 8.3日、救急医療入院比率 = 0.0%

②「慢性副鼻腔炎」

医療機関全体の状況

全症例中の割合 = 0.27%、平均在院日数 = 8.03日、救急医療入院比率 = 1.17%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合 = 0.19%、平均在院日数 = 5.9日、救急医療入院比率 = 0.0%

【眼科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 水晶体再建術ほか（片目手術）	71件	3.8日	0.0%	75.0歳
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 水晶体再建術ほか（両目手術）	68件	4.8日	0.0%	75.4歳
020220xx97xxx0	緑内障 緑内障手術ほか（水晶体再建術など）	8件	5.1日	0.0%	57.5歳
020220xx97xxx1	緑内障 緑内障手術ほか（水晶体再建術など両目手術）	3件	10.0日	0.0%	66.3歳
020370xx99xxx	視神経の疾患 手術なし	3件	6.7日	0.0%	54.3歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。

当院の眼科におきましては、各病院や医院との連携を大事に患者さん本位の医療を目指しています。主に白内障手術を行っており、身体や眼の状態によっては日帰り手術も行っております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「白内障、水晶体の疾患 水晶体再建術ほか（片目手術）」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 2.16%、平均在院日数＝ 3.29日、救急医療入院比率＝ 0.21%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 0.54%、平均在院日数＝ 3.8日、救急医療入院比率＝ 0.0%

②「白内障、水晶体の疾患 水晶体再建術ほか（両目手術）」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 1.06%、平均在院日数＝ 6.49日、救急医療入院比率＝ 0.17%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 0.53%、平均在院日数＝ 4.8日、救急医療入院比率＝ 0.0%

【皮膚科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
080020xxxxxxxx	带状疱疹	3件	7.3日	0.0%	60.7歳
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	3件	15.7日	0.0%	64.3歳
080005xx99x1xx	黒色腫 手術なし 処置あり（中心静脈注射など）	3件	9.3日	0.0%	65.0歳
080030xxxxxxxx	疱疹（带状疱疹を除く） その類症	1件	8.0日	0.0%	55.0歳
080011xx970x0x	急性膿皮症 手術あり（皮膚切開術（10cm未満）など） 副傷病なし	1件	14.0日	0.0%	67.0歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。なお、当院における皮膚科領域の治療におきましては、手術も含めて外来診療を基本としており、入院の多くは基礎疾患として糖尿病、腎障害などを有しているリスクの高い患者さんです。このため、症例数は少ないものの救急入院比率は高い傾向にあります。

当院の皮膚科におきましては、アトピー性皮膚炎・尋常性乾癬・膠原病などの難治性皮膚疾患に対し、総合病院の特色を生かして他科と連携をとりながら、皮膚科学会などのガイドラインに沿ったスタンダードな治療を行っております。主な治療法としまして、紫外線治療（UVA、NB-UVB）、带状疱疹に対するイオンフォレーシス、皮膚腫瘍に対するMohs法を施行しています。また、皮膚腫瘍におきましては、形成外科・放射線科などと協力し外科治療・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「带状疱疹」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝0.24%、平均在院日数＝9.36日、救急医療入院比率＝22.77%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝0.02%、平均在院日数＝7.3日、救急医療入院比率＝100.0%

②「急性膿皮症 手術なし」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝0.40%、平均在院日数＝12.19日、救急医療入院比率＝33.85%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝0.02%、平均在院日数＝15.7日、救急医療入院比率＝100.0%

【泌尿器科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 処置あり（前立腺針生検法）	284件	3.0日	0.0%	68.8歳
11012xx040x0x	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき） 副傷病なし	225件	2.9日	0.0%	55.1歳
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術	159件	4.3日	0.6%	73.2歳
11012xx020x0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術ほか 副傷病なし	109件	3.5日	0.0%	58.5歳
110080xx01x0xx	前立腺の悪性腫瘍 前立腺悪性腫瘍手術等	58件	14.1日	0.0%	67.1歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。しかしながら、その症例数は全国トップクラスであり、「診断群分類毎の集計」と同様に公開されております「疾患別手術別集計 MDC11」データを見ますと、上記の表で3位のDPCコードとなります「膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術」につきましても、全国第16位の症例数であり、上記の表で5位のDPCコードとなります「前立腺の悪性腫瘍 前立腺悪性腫瘍手術等」につきましても、全国第26位の症例数でした。また、この表には記載されておきませんが、膀胱全摘術の症例数は2013年の1年で27症例あり、これは全国第3位の症例数です。

当院の泌尿器科におきましては、エコーおよびX線を同時に使用できる破碎機を中部地区で最初に導入したり、世界に先駆けて腎癌に対する腹腔鏡下根治的腎摘術を行うなど、最先端の治療法を積極的に導入しております。また、腎移植、排尿ケアなど専門的な治療も充実しており、院外からの高い評価を得ております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「前立腺の悪性腫瘍 手術なし 処置あり（前立腺針生検法）」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 1.03%、平均在院日数＝ 2.85日、救急医療入院比率＝ 0.15%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 2.22%、平均在院日数＝ 3.0日、救急医療入院比率＝ 0.0%

②「上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき） 副傷病なし」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 0.30%、平均在院日数＝ 3.12日、救急医療入院比率＝ 3.92%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 1.76%、平均在院日数＝ 2.9日、救急医療入院比率＝ 0.0%

【形成外科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
160200xx0200xx	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む） 頬骨骨折観血的整復術ほか （鼻骨骨折整復固定など）	18件	2.9日	0.0%	29.1歳
070570xx010xxx	瘢痕拘縮 瘢痕拘縮形成手術ほか	4件	5.0日	0.0%	23.5歳
161000x101x0xx	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷 植皮手術（全層・分層）	3件	44.3日	0.0%	59.0歳
161000x299x1xx	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷 （Burn Index10以上） 手術なし 処置あり（中心静脈注射など）	2件	36.5日	0.0%	68.0歳
080220xx97xxxx	エクリン汗腺の障害、アポクリン汗腺の障害 手術あり（皮膚、皮下腫瘍摘出術など）	2件	2.0日	0.0%	17.5歳

《診療科の特徴》

形成外科領域における対象疾患におきましては、その範囲が広いことから、厚生労働省より公開されております「DPC導入の影響評価に関する調査」の「診断群分類毎の集計」データとの傾向比較はできませんでした。なお、上記の表で第3位のDPCコードとなっております「熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷 植皮手術（全層・分層）」につきましては、全身管理が必要な緊急入院の熱傷症例であり、平均在院日数が長くなっております。

当院の形成外科におきましては、浸潤療法、マイクロサージャリー、顔面骨骨折、乳房の形成外科、眼瞼下垂、重症熱傷に対する治療を得意としております。特に、マイクロサージャリー（四肢の神経・血管損傷、切断手指再接着）におきましては、県下でも有数の病院です。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

- ① 「顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む） 頬骨骨折観血的整復術ほか （鼻骨骨折整復固定など）」  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合＝ 0.08%、平均在院日数＝ 6.07日、救急医療入院比率＝ 11.20%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合＝ 0.14%、平均在院日数＝ 2.9日、救急医療入院比率＝ 0.0%
- ② 「瘢痕拘縮 瘢痕拘縮形成手術ほか」  
医療機関全体の状況  
全症例中の割合＝ 0.02%、平均在院日数＝ 6.76日、救急医療入院比率＝ 0.10%  
小牧市民病院の状況  
全症例中の割合＝ 0.03%、平均在院日数＝ 5.0日、救急医療入院比率＝ 0.0%

【心臓血管外科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
050180xx97xxxx	静脈・リンパ管疾患 その他手術	67件	3.2日	0.0%	66.3歳
050080xx0101xx	弁膜症 弁形成術・弁置換術・大動脈瘤切除術など 処置あり（人工呼吸・中心静脈注射など）	19件	18.4日	0.0%	63.4歳
050050xx0101xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 冠動脈、大動脈バイパス移植術・冠動脈形成術など 処置あり（人工呼吸・中心静脈注射など）	17件	16.4日	0.0%	70.2歳
050163xx03x0xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 ステントグラフト内挿術	13件	11.1日	0.0%	77.7歳
050161xx97x1xx	解離性大動脈瘤 その他手術あり（大動脈瘤切除術など） 心臓カテーテル法による諸検査 （一連の検査について）	13件	28.4日	0.0%	58.7歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。しかしながら、平均在院日数は当院の方が上位5つのDPCコード全てにおいて短いことから、より効率的な治療を行っていると言えます。

当院の心臓血管外科におきましては、成人の心臓血管外科全般を対象として外科治療を行っており、尾張北部医療圏における三次救急医療施設として、不安定狭心症、急性心筋梗塞、急性大動脈解離、大動脈瘤破裂等の循環器系の重症救急患者に対して、24時間体制で対応しております。特徴としましては、心臓弁膜手術において日本でもいち早く僧帽弁形成手術を行い、内視鏡下手術を導入するなど最先端の治療方法を行っております。また、大動脈弁逆流に対し、患者さんの術後の長期間に及ぶ生活の質（QOL）に特に優れております弁形成術に注力し、弁膜症センターを開設しました。他にも冠動脈バイパス術に対して脳合併症の少ないオフポンプという方法を導入したり、小さな傷で行うMICSという手術を導入するなど、患者さんに負担が少ない治療法を積極的に行っております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「静脈・リンパ管疾患 その他手術」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 0.30%、平均在院日数＝ 4.12日、救急医療入院比率＝ 0.70%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 0.52%、平均在院日数＝ 3.2日、救急医療入院比率＝ 0.0%

②「弁膜症 弁形成術・弁置換術・大動脈瘤切除術など 処置あり（人工呼吸・中心静脈注射など）」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 0.10%、平均在院日数＝26.32日、救急医療入院比率＝ 3.89%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 0.15%、平均在院日数＝18.4日、救急医療入院比率＝ 0.0%

【呼吸器外科】

DPCコード	DPC名	症例数	平均在院日数	転院率	平均年齢
040040xx01x0xx	肺の悪性腫瘍 肺悪性腫瘍手術・肺切除術など	103件	11.9日	1.0%	69.7歳
040200xx01x00x	気胸 肺切除手術（胸腔鏡下手術含む） 処置なし・副傷病なし	20件	9.1日	0.0%	22.8歳
040030xx01xxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術など	6件	8.5日	0.0%	58.5歳
040020xx97xxxx	縦隔の良性腫瘍 手術あり	5件	9.2日	0.0%	48.2歳
040200xx01x01x	気胸 肺切除術等 手術・処置なし 副傷病あり（間質性肺炎など）	4件	13.5日	0.0%	50.5歳

《診療科の特徴》

厚生労働省より「DPC導入の影響評価に関する調査」として公開されております。「診断群分類毎の集計」データと比較しますと、当院で上位5つのDPCコードとされております症例は、全国的にも上位となっており、概ね同じ傾向となっております。

当院の呼吸器外科におきましては、肺癌、自然気胸、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、多汗症のほか、呼吸器外科全般の疾患を対象とした外科治療を行っております。主に肺癌の手術を行っており、手術の適応につきましては呼吸器内科の医師と連携しながら決定しております。また、患者さんの術後の生活の質（QOL）を考慮し、主に胸腔鏡を用いた手術を行っております。

【厚生労働省「診断群分類毎の集計」データとの比較】

①「肺の悪性腫瘍 肺悪性腫瘍手術・肺切除術など」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 0.41%、平均在院日数＝13.67日、救急医療入院比率＝ 0.32%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 0.81%、平均在院日数＝11.9日、救急医療入院比率＝ 1.0%

②「気胸 肺切除手術（胸腔鏡下手術含む） 処置なし・副傷病なし」

医療機関全体の状況

全症例中の割合＝ 0.12%、平均在院日数＝ 9.95日、救急医療入院比率＝45.69%

小牧市民病院の状況

全症例中の割合＝ 0.16%、平均在院日数＝ 9.1日、救急医療入院比率＝20.0%